

日米安保体制史



[日米安保体制史 下载链接1](#)

著者:吉次 公介

出版者:岩波新書

出版时间:2018-10

装帧:

isbn:9784004317418

いわゆる「安保体制」はどのように形成され，変容・維持されてきたのか．日本の対米協力，米軍基地の運用，米軍基地問題をめぐる日米関係史の三つの要点を軸に，内在する「非対称性」「不平等性」「不透明性」「危険性」に焦点を当て，その全歴史をたどる．大きな転換点を迎えたいま，今後の方向性を考えるための基本の一冊．

作者介绍:

吉次公介（よしつぐ こうすけ）

1972年長崎県生まれ．立教大学文学部卒業．同大学大学院法学研究科博士後期課程退学．博士(政治学)．日本学術振興会特別研究員，東西センター(East-West Center)客員研究員，沖縄国際大学法学部教授等を経て，

現在一立命館大学法学部教授

専攻一国際政治学・日本政治外交史

著書一『池田政権期の日本外交と冷戦——戦後日本外交の座標軸1960-1964』（岩波書店，2009年）／『日米同盟はいかに作られたか——「安保体制」の転換点1951-1964』（講談社選書メチエ，2011年）など

目録: はじめに

第一章 講和の代償——日米安保体制の形成 一九四五—一六〇

第一節 日米安保体制の成立

1 米ソ冷戦の始まりと日本

2 対日講和と安保条約

3 安保調印の波紋

第二節 「独立の完成」をめざして——安保改定への道

1 鳩山一郎政権の挫折

2 安保改定の模索

3 新安保条約の調印

第三節 安保体制の「危険性」——米軍基地問題の始まり

1 安保体制の成立と米軍基地問題

2 在日米軍の縮小

第二章 米国の「イコール・パートナー」として 一九六〇—一七二

第一節 「イコール・パートナーシップ」の形成

1 安保体制の転換点

2 ベトナム戦争と安保体制

第二節 沖縄返還と七〇年安保

1 「戦後は終わらない」

2 「核抜き・本土並み」をめぐる相克

3 七〇年安保というハードル

第三節 国民的「十字架」としての米軍基地問題

1 「基地公害」への批判

2 核をめぐる不安

3 基地問題の「暴風信号」

第三章 日米「同盟」への道 一九七二—一八九

第一節 日米「同盟」への起点

1 「基本的枠組み」としての安保体制

2 「日米防衛協力のための指針」の策定——「同盟」への起点

第二節 新冷戦と「同盟」路線

1 新冷戦の幕開け

2 「同盟」をめぐる迷走

3 「同盟」関係の強化

第三節 基地をめぐる本土と沖縄のねじれ

1 本土における基地問題の後退

2 核兵器持ち込みへの疑念

3 沖縄への集中と固定化

第四章 冷戦後の課題 一九九〇—二〇〇〇——安保再定義と普天間移設問題

第一節 湾岸戦争と安保体制

- 1 「湾岸のトラウマ」
- 2 自衛隊の海外派遣
- 3 日米「同盟」の定着
- 第二節 安保再定義とガイドライン
 - 1 「同盟漂流」への懸念
 - 2 アジア太平洋地域の「基礎」へ
- 第三節 激変する米軍基地問題——普天間移設問題の始まり
 - 1 沖縄少女暴行事件の衝撃——顕在化する「危険性」と「不平等性」
 - 2 普天間返還の浮上
- 第五章 安保体制の「グローバル化」二〇〇——一八
 - 第一節 「テロとの戦い」と「世界の中の日米同盟」
 - 1 米国同時多発テロとテロ特措法
 - 2 「戦地」に向かう自衛隊——イラク戦争とイラク特措法
 - 3 G・W・ブッシュ政権の世界戦略と日本
 - 第二節 「安保構造」への挑戦と挫折——民主党政権下の安保体制
 - 1 日米の軋轢
 - 2 普天間移設をめぐる迷走
 - 第三節 集団的自衛権と安保体制——本格化する「グローバル化」
 - 1 集団的自衛権の行使容認
 - 2 安保体制の「グローバル化」——ガイドラインと安保関連法
 - 3 アポリアとしての米軍基地問題
- おわりに
 - • • • • (收起)

[日米安保体制史_ 下载链接1](#)

标签

日本

历史

日本史

日本政治

安全保障

外交史

同盟

军事

评论

<http://agora-web.jp/archives/2035734.html> 篠田 英朗 的批评

岩波小红书一直是立场先行，不过这位作者写错好几个史实，被保守系学者跳出来搞了个大新闻，颇为有趣

[日米安保体制史 下载链接1](#)

书评

[日米安保体制史 下载链接1](#)